# 昭和天皇のゆかりの地を訪ねて

## 群馬・赤城山

日本百名山の一つ群馬県の赤城山は二重式成層火山。休火山であるとの説が有力ですが、一八二八㍍の黒檜山や一六七四㍍の地蔵岳などの峰からなり、その南西山麓で昭和二十六（一九五一）年四月四日、第二回全国植樹祭が開催され、昭和天皇・香淳皇后はクロマツの苗を三本ずつお手植えになりました。そして、この四十七年後の平成十（一九九八）年秋、同県館林市出身の向井千秋・宇宙飛行士により昭和天皇お手植えのクロマツの種は地球周回軌道に運ばれて無重力状態を体験、地上に帰還後は発芽して平成十三年から十四年にかけて三十三施設に総計三十八本が配布されました。歴史の意外な展開を今回はご紹介しましょう。

（大石　昭爾）

両陛下はお召列車で四月四日十二時四十分に国鉄・前橋駅にご到着、関口前橋市長らのお出迎えを受けられた後、御料車で北上。

一〇㌔以上の沿道に「日の丸」の小旗をふって並ぶ小中高校生をはじめとする県民に、昭和天皇は帽子をとってお応えになりながら植樹祭の会場である富士見村赤城山の前橋市有林に十三時二十三分にお着きになりました【注】。

国土緑化推進委員会の林委員長（衆議院議員）らのお出迎えを受けられた後、両陛下はクロマツをお手植えされて十三時五十分に会場を後に。

十四時二十七分に県庁に着かれた両陛下は県職員や納税功労者・供米功労者らのお出迎えにご会釈され、伊能知事の説明で物産陳列所や国土緑化ポスターの生徒作品をご覧になって、前橋駅から船津伝次平が、赤城山麓の天水場(田)の水不足を解消するためにクロマツを植え水源涵養に尽くしていたことを踏まえ、両陛下の行幸啓でさらなる発展を主催者は願ったのでしょう【出典・富士見村教育委員会「老農船津伝次平」など】。

このような背景があって、クロマツは昭和四十一（一九六六）年十月十一日に「県の木」に指定されています。

◇

植樹祭から三十年後の昭和五十六（一九八一）年六月三日、三日間のご予定で昭和天皇・香淳皇后は「榛名・赤城山での植生研究」のために非公式に来県されました。

事前に宮内庁から「歓迎はあまり大げさにならないように」との要望がありましたが、道路のクリーン作戦などは実施され、街は歓迎ムード。

両陛下は榛名山の中腹にある伊香保温泉で二泊（伊香保御用邸（現・群馬大学保養所）をお一人でご覧になっています。

最後の六月五日は、伊香保温泉の東約一八㌔にあり竣工間もない富士見村中央公民館に移動され、午後、第二回全国植樹祭の会場となった地を訪ねられました。

お手植えの際のクロマツは小指ほどの太さで高さは四、五〇㌢でしたが、時を経て直径一六、七㌢、高さ二四、五㍍の大木に生長したのを両陛下は懐かしそうにご覧になっておられたそうです。

両陛下はこの後、県民の歓迎に感謝され前橋駅から皇居におもどりになった【出典・上毛新聞】。

この植樹祭のテーマは「火山灰地帯の造林」。内陸県では珍しいクロマツが選択されたのは、現在の富士見村地内に天保三（一八三二）年に生まれ「明治三老農の一人」「静岡の石垣イチゴづくりの指導者」といわれた一（一九六六）年十月十日の宇宙飛行士・向井千秋さんの二度目の飛行、すなわちスペースシャトル「ディスカバリー」での平成十年十月三十日から十一月八日（日本時間）までの飛行を前にして宇宙開発事業団（現・宇宙航空研究開発機構ＪＡＸＡ）から群馬県に「公式飛行記念品として搭載する地元に因む品のご提供を」との要請があり、県は昭和天皇がお手植えになったクロマツの種を百粒提供することにしました。

十日間の宇宙の旅を終えた向井さんは翌平成十一年一月二十二日に前橋の群馬県庁に来られて小寺県知事にクロマツの種を返還、このうち十六粒を知事らとその場で記念にすぐ播かれましたが、これを含めすべての種の管理が榛名山山麓の榛東村にある群馬県林業試験場に委ねられました。

同試験場では総計八十粒を播き、発芽率は五〇㌫。

宇宙を体験していない種の苗と平成十二年末に比較していますが、宇宙を体験した種の苗の方がやや大きいものの統計上の有意差は認められませんでした。しかし、今後も生育に注目していく必要があるでしょう。

宇宙を体験したマツ苗の移植先の一つは館林市にある「向井千秋記念子ども科学館」。〝宇宙マツ〟は同館正面に向かって左に、向井さんが平成六年の第一回飛行時に地球周回軌道に乗せた館林のツツジの種から育った宇宙ツツジや、若田光一さんが平成十二年に宇宙に上げた錦乃原桜草とともに植えられています。

また、播かなかった二十粒の種のうち十粒は館内の二階に上がる階段わきに展示されています＝写真③。

同館の展示室には、目玉の「向井千秋さんと宇宙」のほか「体験の世界」「観察の世界」「応用の世界」「特別展示室『飛翔基地』」があり、天文台やプラネタリウム、実験室などもあって少年少女の科学する心を育てるにはうってつけの施設。プリンやエビグラタンなどの宇宙食を売店で買い試食してみるのもよい思い出になるでしょう。

●向井千秋記念子ども科学館
☆入館料　高校生以上三百十円、中学以下無料
☆開館時間　９時～17時（入場は16時半まで）
☆休館日　月曜（月曜が休日の場合はその翌日）と国民の祝日の翌日（土日は除く）。年末年始・設備点検の期間など
☆☎　０２７６・７５・１５１５
☆アクセス　東武鉄道「館林駅」から徒歩約20分、または同駅から板倉東洋大前駅行きの市営バス７分「子ども科学館前」で下車すぐ
☆隣接施設に「田山花袋記念文学館」（☎０２７６・７４・５１００）、離れて「ぶんぶく茶釜」で有名な茂林寺があります

お手植えになる両陛下（富士見村提供）

クロマツと再会される両陛下（「写真集　富士見村制百年のあゆみ」から転写）

成長したクロマツの根元近くには「天皇陛下お手植の松」（原文）、「皇后陛下お手植の松」と刻まれた二つの記念碑。樹間の向こうは赤城山

①群馬県林業試験場の玄関前にも宇宙マツ（同場提供）②向井千秋記念子ども科学館。向井さんは９月13日のＪＡＸＡタウンミーティングで来館されましたが、「昭和天皇にはお目にかかったことはありません」とのことでした

②

③

# 宇宙へ行ったお手植え松の種

【注】
▽「全国植樹祭」は第二十一回以降の正式名称で、第一回から二十回までの正式名称は「植樹行事ならびに国土緑化大会」。しかし、当時の上毛新聞には「植樹祭」の表記もあります。主催者は国土緑化推進委員会（現・国土緑化推進機構）と当該県です。
▽「赤城山」の読み方は地元では山名は「あかぎやま」で、富士見村内の住所表記は「さん」。富士見村はいま来年五月に前橋市と合併する手続きを進めていて、明治二十二（一八八九）年以来の村の歴史に幕を下ろす見込みです。